

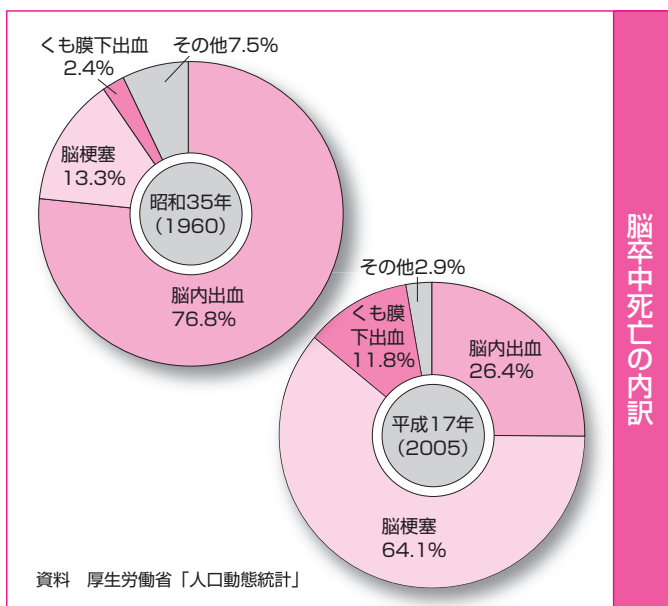
知っておきたい
病状・診断・治療法

脳梗塞 を防ぐ ために

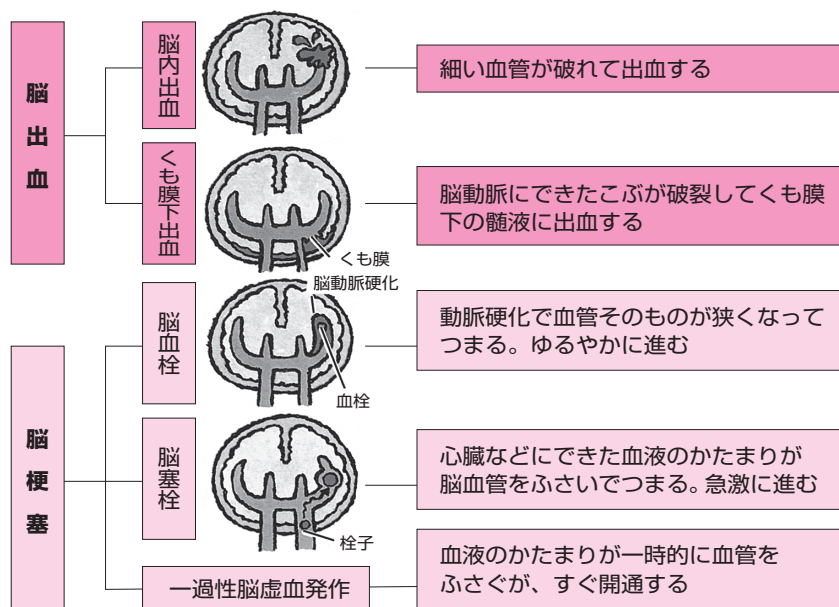
監修・齋藤 勇 (杏林大学医学部名誉教授)

脳梗塞がふえてきた

脳梗塞がふえています。これは、高齢化が進んだこと、動物性脂肪中心の食事や運動不足による動脈硬化、それに高血圧や糖尿病、心臓病がふえたためと考えられています。



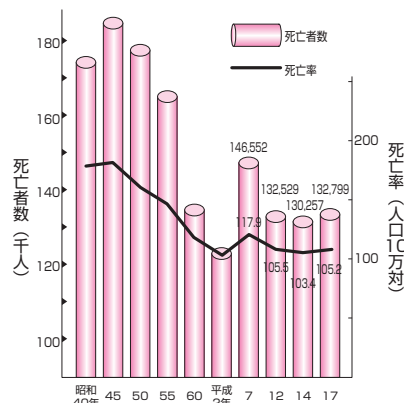
脳卒中の五つのタイプ



脳卒中のうち、脳血管がつまるのが脳梗塞、破れるのが脳出血です。最近では脳出血の大幅な減少により、脳卒中全体は減る傾向にありますが、脳梗塞は逆にふえており、脳卒中による死亡者の60%以上を占めています。脳梗塞は後遺症が残りやすく、認知症や寝たきりの原因として社会問題にもなっています。

脳卒中の死亡者数・死亡率の年次推移

脳卒中による死亡は減っていますが、95年は新しい死亡診断書の周知によってふえています。



脳梗塞の前ぶれ症状 (数分ないし2、3時間でおおよる)

<p>1 手足がマヒしたり、しびれる</p>	<p>2 舌がもつれて、ろれつが回らない</p>
<p>3 物が二重に見える。視野異常</p>	<p>4 吐き気をとまなかっためまいがする</p>

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① 動脈硬化・不整脈がある | ③ 糖尿病がある |
| ② 血圧が高い・肥満 | ④ 動物性脂肪に偏った食事をしている・喫煙 |

脳梗塞は、脳血管そのものや心臓、その他の血管におきた動脈硬化が原因でおこります。その意味で、動脈硬化が進みやすい人は脳梗塞にかかる危険性が高いといえます。

脳梗塞にかかりやすい人

脳梗塞発作を防ぐための検査

● 一般的検査

危険因子である動脈硬化や高血圧などをチェックする検査は、日常の定期検診で受けることができます。気になる症状がある場合は、一度検査を受けましょう。

問診

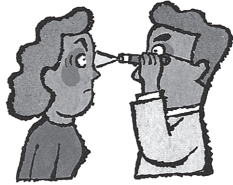
医師は、脳梗塞の危険因子である、①高血圧、糖尿病や心臓病の有無とその治療状況、②喫煙の状態、③家族歴、④一時的なマヒや言語障害などの有無について質問します。

神経学的検査

1 一本の線の上を歩いて、手足のマヒや平衡感覚の異常など、運動機能に障害がないかを調べます。



2 目を大きく見開いて遠くを見ます。医師は、ペンライトの光を目に当てて、眼球の運動に異常がないかを調べます。



3 意識はしっかりしていても感覚がマヒすることがあるので、筆でほおを刺激し、左右同じに感じるかを調べます。



血液検査、心電図検査

血液の検査でコレステロール、中性脂肪、血糖値などをチェックします。心電図検査では、心房細動など脳梗塞をおこしやすい異常の有無を調べます。

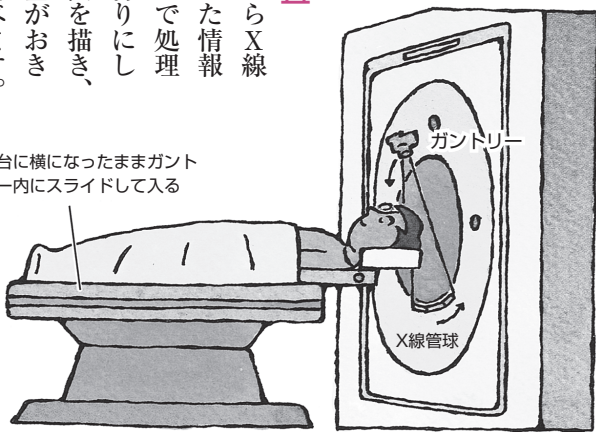
● 画像診断

CT検査では、症状の出ないところに生じている無症候性脳梗塞が診断されます。MRI検査では、CTよりごく小さな病変のチェックや脳血管の狭窄ないし閉塞の有無を診断できます。

画像診断で無症候性梗塞や血管の変化が発見された場合は、血圧や糖尿病、脂質異常症の管理を厳重にすること、場合により脳血流をよくするくすり、血栓を予防するくすりを服用することもあります。

X線CT検査

頭の各方向からX線を当て、得られた情報をコンピュータで処理して、脳を輪切りにしたような断面図を描き、どの部分に梗塞がおきているのかを調べます。



寝台に横になったままガントリー内にスライドして入る

MRI検査（磁気共鳴断層撮影）

からだを強力な磁場の中に入れ、体内の水素の原子核を強力な磁気や電波でゆさぶり、原子核から反響する信号を画像化する方法です。X線CT検査に比べて、磁気や電波は骨にじゃまされないので、鮮明な画像が得られます。

検査中、ドンドンという道路工事のような音がしますが、苦痛はなく、磁気を使うのでX線を被曝する心配もありません。検査には15分かかります。



MRI装置（Magnetic Resonance Imaging）（写真提供・東芝メディカル）